

# 諏訪小だより

令和7年1月8日  
1月号  
多摩市立諏訪小学校  
校長 齋藤 幸之介

「変化」を見定めながら―新年に際し、改めて思うこと

校長 齋藤幸之介

日が沈む頃、諏訪5丁目歩道橋から見える富士は、昼間の雪化粧の様子とはまた異なり、そのシルエットが心を打ちます。このような美しさを頭に描きながら、諏訪の地から仰ぐ御来光はきっと格別であろう、と想像しています。

新しい年を迎えました。本年もどうぞよろしくお願い申し上げます。

## 「新しい教育」に向けての動き

さて、昨年12月25日、阿部俊子文部科学大臣は小学校で教えるべき内容を示す学習指導要領の改訂を中央教育審議会に諮問しました。現在の学習指導要領が7年前に改訂され、およそ10年ごとに新しくなることを考えれば、これからの学校教育に向かつての動きはすでに始まっていて当然、とも言えましょう。

学習指導要領は時代と共に変わっていきますが、改訂前のものを引き継いで新しいものができる、という評価があります。私共は「これまで」と「これから」の両面を検討しながら対応をしていくことになります。

ちなみに、新聞には、「「情報モラル」高める教育の検討求める…学校の裁量拡大も議論へ」（読売新聞）、「柔軟化、負担軽減、がポイントに」（朝日新聞）、「科目構成は維持、教員の負担軽減図り「脱ゆとり路線」も継続」（産経新聞）、「「余白」活用 期待と不安」（毎日新聞）、「授業を5分短縮、浮いた時間は個別学習に 生成AIなど「デジタル」教育充実」（東京新聞）と、当然のことながら取り上げ方は万別です（いずれも、12月26日）。現行を踏襲しているものもあれば、新たに盛り込まれるものもあることが分かります。今後を注視しながら今を確実に進んでいきたいと思っています。

## 6年生の取組に見える「子供たちの素晴らしさ」とそれを保障するための手立て

さて、少し前の教育活動について述べたいと思います。

現在6年生は卒業文集の作成に取り組んでいます。クラスページは学級全体で取り組みますが、個人作品は当然のことながら一人一人が小学校生活を振り返りながら、その時々思い出や学び、成果や今後の自分のあり方を述べています。担任

教員からは当然苦勞をしていることを聞いています。遅々として進まない場合があること、詳細に表現できずに悩む子がいること、などです。しかし、結果として子供たちは現段階のまとめを行えました。

私も全員の文章を読みました。まず言えるのは「どれも力作」ということです。自分なりの言葉を紡ぎながら、話を確実に進めています。また、子供たちは私が想像していた以上に自分を的確に見つめていました。課題、長所、成長したこと、これらを見出すのは容易ではありません。よく「メタ認知」などと言い、自分自身を客観的に捉えることが求められますが、子供たちは自分をよく観ている、と思っています。ここには、平素はもちろんのこと、今回の作品に取り組む際の保護者の方々の働きかけがあった、とこの場をお借りして感謝をしたいと思います。

実は、今回の諮問には、今後の学習指導要領に際して「顕在化している課題等について」に「自分の考え」を書くことに課題」があることが挙げられています（初等中等教育における教育課題の基準のあり方について（諮問）参考資料より）。これは以前より言われていることであり、それでもなかなか改善しないのは、「書く」ということがいかに難しいかということに他なりません。

## 「これまで」と「これから」

これをどのように乗り越えたらよいのか、それは一例にもなりますが、今回の6年生の取組のように、時に修正を加えながら粘り強く取り組む子供たちを励ましなが、教員も共に取り組む姿勢をもち、悩む子供たちに助言をしたり、表現のよさを賞賛したりするという、地道な努力が必要なことは言うまでもありません。もちろん、例えば今後生成AIを活用することもあるかもしれません。しかし、最終的な主体は子供たちです。そして、主体になるために子供たちには「生きる力」を身に付けさせるのが学校教育であることを改めて確認したいと思っています。そして、これを具体化するために、「これまで」を見つめ、「これから」を見定めていきたいと思っています。

本年もどうぞよろしくお願いいたします。